



大阪ゲヴァントハウス合唱団

創立 30 周年記念演奏会

歌の絆 ～東日本への祈りをこめて～

共 演

カメラータ・ヴォカーレ・ベルリン
CAMERATA VOCALE BERLIN

2012年10月7日（日）

13時30分開演

兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール

主 催 大阪ゲヴァントハウス合唱団

後 援 大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館
大阪音楽大学
カトリック大阪大司教区
日本聖公会大阪教区
京都ゲヴァントハウス合唱団
カメラータ・ヴォカーレ・ベルリン

（順不同）

“絆”のコンサート

不幸な出来事が、お互いの親密度を増すきっかけになることがあります。東日本大震災が起きて、世界中から支援の声や金品が、たくさん日本に寄せられるようになりました。人間て、すばらしいなと痛感します。

そんな気持ちを表現するのに最適な方法は、音楽です。とりわけ合唱は、たちまちに人々の心を一つにします。大阪ゲヴァントハウス合唱団創立30周年記念演奏会は、まさにそのようなコンサートです。はるばるベルリンから「カメラータ・ヴォカーレ・ベルリン」がやってきて、日本の合唱仲間たちとモーツァルトの『レクイエム』を歌い、大震災犠牲者の霊に捧げ、さらには来年3月に、ベルリン・コンツェルトハウスでも、同じ趣旨のコンサートを開きます。こうして「歌の絆」が広がる先の天国に、合唱団の創始者林達次先生、偉大な指導者浦山弘三先生がおられるのです。

おふたりにも、この歌声が届きますように。

大阪音楽大学客員教授・音楽評論家
日下部吉彦

創立30周年を迎えて

本日は、ようこそお越しく下さいました。大阪ゲヴァントハウス合唱団も創立30周年を迎えることが出来ました。これも、ひとえに皆様方の温かい励ましのおかげと一同感謝に堪えません。ほんとうに有難うございます。

本日は、5年前の25周年の時と同じく、ドイツよりカメラータ・ヴォカーレ・ベルリンとの協働演奏会です。それは、決して創立のお祝いの為でなく、昨年起きた東日本大震災を悲しみ、せめて追悼の演奏をしたいとの思いからの提案でした。カメラータ・ヴォカーレ・ベルリンとは10年前のまさしく10月7日に、ザ・シンフォニーホールにおいて林先生の指揮で「モツレク」を演奏して以来、日独で7回の協働演奏会をしてきました。オラトリオを演奏する合唱団として、波多野均先生の指導を得て、言葉の障壁もクリアーしながら、お互いに必要な合唱団として、遠くにあってもお互いを気遣う関係を構築してきました。来年、東日本大震災記念日の4日前の3月7日には、ベルリンのコンツェルトハウスにて追悼演奏会を行います。

大阪ゲヴァント30年の間に、世の中大きな変動がありました。本日の日下部先生のご挨拶で「歌の絆」というお言葉を頂きました。私たちは、このお言葉を肝に銘じて、前進して参る所存です。どうか皆様にはこれまでと同様のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い致します。

大阪ゲヴァントハウス合唱団
幹事長 片桐知之

プログラム

J.S.Bach **MAGNIFICAT** BWV243 J.S.バッハ マニフィカト

- 1.Magnificat (Coro)
- 2.Et exsultavit spiritus meus (Soprano II solo)
- 3.Quia respexit humilitatem (Soprano I solo)
- 4.Omnes generationes (Coro)
- 5.Quia fecit mihi magna (Basso solo)
- 6.Et misericordia (Alto solo,Tenore solo)
- 7.Fecit potentiam (Coro)
- 8.Deposuit potentes (Tenore solo)
- 9.Esurientes implevit bonis (Alto solo)
- 10.Suscepit Israel (Soprano I , II ,Alto)
- 11.Sicut locutus est (Coro)
- 12.Gloria Patri (Coro)

////////////////////
 休 憩
 //////////////////////

W.A.Mozart **REQUIEM** KV626 W.A.モーツァルト レクイエム

『バイヤー版』による

INTROITUS ; Requiem

入祭唱

KYRIE

キリエ

SEQUENZ

続唱

Dies irae

怒りの日

Tuba mirum

不思議なラッパ

Rex tremendae

恐るべき威光の王よ

Recordare

思い出したまえ

Confutatis

呪われた者たちが

Lacrimosa

涙の日

OFFERTORIUM

奉献唱

Domine Jesu

主イエス・キリスト

Hostias

賛美のいけにえ

SANCTUS

聖なるかな

BENEDICTUS

祝福あれ

AGNUS DEI

神の子羊

COMMUNIO ; Lux aeterna

聖体拝領唱 ; 永遠の光

指 揮

エッタ・ヒルスベルク

Etta Hilsberg

ソプラノ

エスター・ヒルスベルク

Esther Hilsberg

メゾソプラノ

三井 ツヤ子

Tsuyako Mitsui

テノール

波多野 均

Hitoshi Hatano

バリトン

田中 勉

Tsutomu Tanaka

ソプラノ

大谷 志穂 (マニフィカト第10曲 Soprano II)

Shiho Otani

管 弦 楽

大阪チェンバーオーケストラ

Osaka Chamberorchestra

合 唱

カメラータ・ヴォカール・ベルリン

Camerata Vocale Berlin

大阪ゲヴァントハウス合唱団

Gewandhauschor Osaka

(注) 当初予定のオルガニスト ハイコ・ホルトマイアー氏が急病で来日できなくなったため、
 本日は代わって、大阪チェンバーオーケストラのメンバー 河野まり子が演奏いたします。

プロフィール

◆エッタ・ヒルスベルク Etta Hilsberg (指揮 : Dirigentin)



14歳の時から教会オルガニストをつとめる。ベルリンで教会音楽を学び、ウィーンでは声楽指導のメソッドを学ぶ。ベルリン各地の教区で教会オルガニストと教会音楽監督を歴任したのち、1985年にカメラータ・ヴォカーレ・ベルリンを創設、みずから団員の発声指導につとめ、ベルリンで有数のアマチュア合唱団に育て上げた。同合唱団とともに、1989年からベルリン・フィルハーモニーとベルリン・コンツェルトハウスで定期的に演奏会を開催し、2002年からはベルリン独立州文化庁から継続的に助成を受けてきた。ベルリン・コンツェルトハウス・オーケストラ、ベルリン・ドイツオペラ劇場オーケストラをはじめ、各地の著名オーケストラと共演、ヨーロッパ内のほか、アメリカ合衆国や日本への演奏旅行もおこなう。それ以外にもフリーの指揮者ならびに音楽教育者として国内外で活躍してきた。合唱指導者としての長年の功績に対し、2010年5月、ベルリン合唱協会から「メンデルスゾーン姉弟メダル」を授与される。

◆エステル・ヒルスベルク Esther Hilsberg (ソプラノ : Sopran)



ケルン音楽院で声楽、作曲、指揮を学び、最優秀の成績を得て声楽で卒業する。クルト・モルをはじめ、多くの著名な歌手のマスタークラスを訪れて研鑽を積む。2009年パッサウの声楽コンクールで賞を受ける。マイニンゲン、フライベルク、ハルバーシュタットの劇場付きの歌手をつとめる傍ら、デュッセルドルフ・ライン・オペラ劇場、ベルリン・ドイツオペラ劇場、ソウル国立オペラ劇場など国内外の劇場で客演、数多くの演目をこなしてきた。コンサート歌手としても、ベルリン・フィルハーモニー、ミュンヘン・ヘラクレスホールなどで、ソリストをつとめてきた。作曲家としては自らプロデュースも手がけるケルン・室内オペラ劇場のために子ども向けオペラ作品「くるみ割り人形」(2007初演)、「中国のナイチンゲール」(同2009)を作曲、ドイツ各地の劇場での再演がおこなわれている。また、「クリスマス・オラトリオ」(初演2010)、「地獄のダンテと天国への道」(同2005)などオラトリオ作品も手がけている。

◆三井 ツヤ子 Tsuyako Mitsui (メゾ ソプラノ : Mezzosopran)



京都市立芸術大学音楽学部声楽科首席卒業。学生時代、故植田治男、佐々木成子各氏に師事。ウィーン国立音楽大学リート・オラトリオ科に留学。故エリック・ヴェルパ氏、故アリーン・オジェー女史に師事。'78年から'86年までフランクフルト、カールスルーエ両国立音楽大学の声楽講師として教鞭を執るかたわら演奏活動を続けてきた。オペラ『ヘンゼルとグレーテル』のヘンゼル、『どろぼうとオールドミス』のミストッド、『おこんじょうり』のばばさま等を演じる。'84、'85年シュトゥットガルトでのバッハ夏期講習、'87年シュパイヤ、'95、'97、'99年ドイツ・マタイザー夏期講習の講師として活躍。日本モーツァルト音楽コンクール、宝塚ベガ音楽コンクールの各声楽部門及び国際ノーヴィコンクール、J・S・G国際歌曲コンクールの審査を努めた。京都市立芸術大学名誉教授、同志社女子大学嘱託講師。関西二期会会員、日本シューベルト協会理事。財高槻市文化事業団理事。

◆波多野 均 Hitoshi Hatano (テノール : Tenor)



愛知県立芸術大学大学院修了。ウィーン国立音楽大学卒業（最優秀ディプロマ取得）。カラヤン財団国際声楽研修所修了。ザルツブルク国際モーツァルトコンクール第3位、旧東ドイツ・オペラ歌手コンクール第2位入賞。ウィーン室内歌劇場、マクデブルク、アーヘン、ルツェルン等の市立歌劇場と契約。モーツァルト、ロッシーニ、ブリテン等のオペラ約30演目に出演。一方、コンサート歌手としてウィーン楽友協会、ベルリンフィルハーモニー、ライプツィヒ聖トーマス教会、また『プラハの春』等、数々の国際音楽祭に客演。特にバッハ、モーツァルト歌いのリリックテノールとして評価が高く、中でもエヴァンゲリスト(福音史家)としての出演回数は100回を超え、ドイツの各紙上で「圧倒的な力量」と絶賛された。

1992年帰国。現在、大阪音楽大学大学院、京都市立芸術大学、名古屋音楽大学各講師。全日本学生音楽コンクール審査員。スコラ・カントールム大阪音楽監督。大阪ゲヴァントハウス合唱団音楽監督・常任指揮者。

◆田中 勉 Tsutomu Tanaka (バリトン : Bariton)



大阪音楽大学大学院歌劇専攻修了。オペラの振り出しは『フィガロの結婚』。『ファルスタッフ』『リゴレット』のタイトルロールで絶賛を博す。

‘84年文化庁芸術家国内研修員。‘90～‘91年文化庁芸術家在外派遣研修員としてウィーン国立音楽大学に留学。帰国後、『椿姫』『蝶々夫人』

『道化師』他多数のオペラに出演。ルーマニア・ヤシ歌劇場より招聘、リサイタルを行う。『なみはや国体』開会式と閉会式で『君が代』を、

その他、『第九』やオラトリオのソリストとしても、全国的に活躍中。第22回なにわ芸術祭 新人奨励賞、第1回JSG国際歌曲コンクール 聴衆特

別賞を受賞。大阪府和泉市より文化功労賞を受ける。‘01年、第20回音楽クリティック・クラブ本賞を受賞。‘04年、大阪舞台芸術賞本賞を受賞。10年、文化庁芸術祭優秀賞受賞。

現在、大阪音楽大学教授。関西歌劇団理事。日本シューベルト協会会員。

◆大谷 志穂 Shiho Otani (ソプラノ : Sopran)



大阪音楽大学卒業、同大学院歌曲研究室修了。矢野蓉子氏に師事。第5回高槻音楽コンクール第1位併せて市長賞、第3回・第4回小倉百人一首うたくらべ作曲者特別賞・最優秀賞、関西歌曲研究会日本のうたコンクール特別賞、各受賞。第11回日本クラシック音楽コンクール全国大会入選。オペラ『デイドとエネアス』デイド役にて出演の他、ジョイントコンサートや歌曲演奏会など多数出演。

日本シューベルト協会、日本ドイツリート協会、関西歌曲研究会、秋篠うたくらぶ、各会員。

◆大阪チェンバーオーケストラ Osaka Chamberorchestra

‘76年、関西室内楽協会を設立以来、島之内教会での月例チャペルコンサートを開催。‘06年11月、300回記念演奏会を迎えた。現在355回を重ね大阪天満教会で継続している。また、京都バッハ合唱団とのバッハ教会カンタータ全曲演奏会も36回を数え、‘02年、ドイツライプツィヒでのバッハフェスティバルに招聘された折の演奏は高く評価された。バッハのカンタータやオラトリオなどの演奏には定評があり各地の合唱団との共演も多い。‘89年、大阪市「咲くやこの花賞」受賞。

◆カメラータ・ヴォカーレ・ベルリン Camerata Vocale Berlin



1985年にエッタ・ヒルスベルクによって創設されたこの合唱団は、1989年以来ベルリン・フィルハーモニーホールならびにベルリン・コンツェルトハウスで年4回の演奏会をこなし、ベルリンを代表するオラトリオ合唱団として高い評価を受けてきた。レパートリーとしては、バッハ、メンデルスゾーンなどの著名なオラトリオ作品を多数上演するかたわら、知られざる名作やバッハ「マルコ受難曲」のような復元作品の演奏にも取り組み、多くの現代作曲家の初演も手がけている。

ドイツ国内の他に、演奏旅行のためにハンガリー、ポーランド、アメリカ合衆国、日本へも赴いた。とくに日本では2002年の演奏旅行以来、大阪ゲヴァントハウス合唱団と協働を続け、日本とドイツの双方で合同の演奏会を繰り返しおこなってきた。今回は記念すべき10年目の合同演奏会にあたる。

◆大阪ゲヴァントハウス合唱団 Gewandhauschor Osaka



‘82年、林達次（1924—2003）により創設。ヨーロッパの宗教音楽を中心に国内外で活動を展開。‘05年より波多野均を常任指揮者に迎える。‘06年いずみホールにおける第17回定演では美しい響きと高度なテクニックで音楽性を豊かに表現したとの高い評価を得た。エッタ・ヒルスベルク指揮カメラータ・ヴォカーレ・ベルリンとは、‘02年モーツァルト「レクイエム」、‘04年ブラームス『ドイツレクイエム』、‘06年バッハ『マタイ受難曲』、‘07年バッハ『ヨハネ受難曲』、‘08年ハイドン『四季』を協働演奏し、波多野の指導による的確なドイツ語と音楽表現で、大阪とベルリンの聴衆を感動で包み込んだ。‘08年7月、NHK大阪ホールでのA.グロスマン指揮によるハイドン『四季』では単独演奏を行い、絶賛を博した。同年、団内に国際交流室を設置。‘09年1月、親鸞聖人と讃曲集『本願力にあいぬれば』（平田聖子作曲）をCD収録（カメラータトウキョウ・好評発売中）。12月6日京都ゲヴァントハウス合唱団と共に、林達次メモリアルコンサート・メンデルスゾーン『エリアス』を好演した。昨年の5月、伊賀市文化会館での東日本大震災、波多野均チャリティーコンサート～大阪ゲヴァントハウス合唱団と共に～に出演した。

演奏曲目解説

J.S バッハ： マニフィカト

大阪ゲヴァントハウス合唱団 岡本康

「マニフィカト」は、*Magnificat anima mea Dominum* (わたしの魂は主をあがめ) という歌い出しで始まるため、マニフィカトと略称されている。ラテン語の一定の歌詞によるキリスト教典礼音楽のひとつで、カトリック僧院で行われる聖務日課のうちの晩課(夕べの祈り)を締めくくるものであるが、プロテスタント教会においてもマニフィカトは歌われる。

歌詞は、新約聖書「ルカによる福音書」第1章に記述された内容に基づいている。即ち、処女マリアが天使ガブリエルからお告げを受けて、神の子を宿すことを知らされる。マリアは不思議に思い、親戚のエリサベトという女性を訪ねてそのことを打ち明ける。エリサベトは年をとって不妊に悩んでいたが、子を宿して6ヶ月になっていた。マリアの話聞いたとき、エリサベト胎内の子が踊った。喜んだエリサベトはマリアを祝福した。そこでマリアが歌った内容がマニフィカトの歌詞になっている(上記福音書1章46～55節)。「わたしの魂は主をあがめ、私の霊は救い主である神を喜びたたえます。……(以下略。対訳参照)。」これは神の御業の偉大なことをほめたたえる言葉が連ねられたものであり、「マリアの賛歌」と呼ばれている。(CD解説書やネット資料などで「マニフィカトは聖母マリアをたたえる歌」と述べられたものを散見するが、誤りである。)

なお、マニフィカト歌詞の末尾には福音書の記述とは別に「栄唱、頌栄、讃詠 *doxologia*——三位一体に対する賛美」が付加される。これは日本の教会で礼拝の最後に歌われる頌栄「父、み子、みたまのおおみかみに、ときわにたえせずみさかえあれ」などと同じ歌詞内容である。

バッハはライプチヒのトーマス教会に着任早々の1723年クリスマスに、変ホ長調のマニフィカトを作曲して演奏した。28—31年頃この初稿をニ長調に移調して、クリスマス関連の挿入曲を除外し、細部の完成度を高めた改訂版を作った。現在広く演奏されるのはこの改訂版の方である。

バッハはマニフィカトの歌詞を11の短い部分に分けて、合唱曲4曲、ソロ曲5曲、二重唱曲・三重唱曲各1曲とし、最後に前述の栄唱を合唱曲で加えた12曲仕立てとした。

第1曲は、弦楽器、木管楽器、金管楽器、打楽器、通奏低音のオーケストラによる輝かしい序奏を伴った五部合唱で始まり、マニフィカト(あがめます)の言葉が繰り返し強調して歌われる。

続く各曲は、歌詞の内容に相応しい曲想で作られ、第10曲ではバッハの作品には珍しい女声三重唱曲も含まれる。この三重唱曲の伴奏楽器オーガエがグレゴリア聖歌のドイツ語版「マニフィカト」をゆったりとしたテンポでオブリガート演奏するのも聴きどころのひとつであろう。

第11曲では力強いフーガによりマリアの賛歌の末尾部分が五部合唱で歌われ、最終曲(栄唱——グローリア・パトリ)では冒頭曲の一部が再現されて、「初めにあったごとく、永遠に」の歌詞を修辞学的に表現して締めくくられる。

モーツァルト「レクイエム」

大阪ゲヴァントハウス合唱団 岡本康

レクイエムは正式には「死者のためのミサ」と言われ、*Requiem eternam dona eis* (彼らに永遠の安息を与えたまえ)という言葉で始まるため、レクイエムと略称されている。中世以来、カトリック教会などにおいて、信者の死亡の際の葬儀などで、ラテン語の一定の歌詞に基づく典礼音楽として演奏されていたものである。

歌詞の内容は、聖書に記載のある「最後の審判」やそれと関係する「煉獄説」の思想に基づくものである。即ち、最後の審判のときには、それまでの死者は墓場から甦生させられ、生者たちもすべてが主なる神のもとに呼び集められて、審判者なる神の厳しい追及を受ける。虚言者や不正者は業火に責めさいなまれて地獄の闇に突き落とされることになる。レクイエムは、死者がその審判のときに厳しい処罰を受けずに済むように、永遠の安息を与えてやって下さい、と、生きている信者たちが神に対して懇願することが内容になっている。レクイエムはよく「鎮魂曲」などと呼ばれることがあるが、歌詞の内容には死者の魂を鎮めるような内容は含まれておらず、その呼び方は誤りである。

対訳歌詞で明らかのように、神に安息を懇願するものと、審判の過酷さや業火の恐ろしさを強調してそれらの試練にあわせないで欲しい、と哀願するものとが含まれている。従って、これに対応する曲想も、自ずから平穏なものと激烈なものとが混在することとなり、古来、作曲家達の創作意欲を刺激するものとなってきた。1962年から65年に行われたヴァチカン公会議により、中世的色彩の濃厚な「死者のためのミサ」は公式の典礼音楽としては廃止されたが、過去に作曲された多くの「レクイエム」は今なお名曲として世界中で演奏されており、また現代に至っても多くの作曲家が新たな曲作りに挑戦している。

モーツァルト(1756～1791)の「レクイエム」は彼が亡くなる直前の1791年に作曲が始められたが、健康状態が悪化したため、完成されることなく未完のままで残された。弟子のジュスマイヤーが補筆を指示されていた部分を完成するとともに、サンクトゥス、ベネディクトゥス、アンニウスデイを追加作曲して現在の「レクイエム」の形に仕上げた。これが、現在でも「モーツァルトのレクイエム」(ジュスマイヤー版)として世界中で愛好されているものである。

近年、このジュスマイヤー版に対する批判の説が色々と出て、部分的な改変や付加、削除、歌詞配分の修正などを実施した版が出ている。今日演奏するのはそのうちの「バイヤー版」による。これは1980年に出版され2005年に改訂版が出ている。ジュスマイヤー版の管弦楽部分をかなり改変し、歌詞の配分なども色々と変えている。ただ、バイヤー版による演奏であっても、指揮者によっては付加部分を割愛するケースなどもあり、完全に定着したとは言いきれない。

この曲にまつわる伝承が多くある。モーツァルトがこの作曲に手を着けるキッカケとなったのは、見知らぬ人の使者が訪ねてきてレクイエムの作曲を依頼されたこと。モーツァルトは一応着手したが、他のオペラの仕事等に忙殺されて筆が進まず、健康の悪化とともに意欲が喪失したこと。使者からの督促など精神的圧迫が死の不可避を覚悟させたこと、等々のことが語り伝えられている。また、その死は宿敵に毒を盛られたため、との説もある。これら諸説の真偽は論争のタネになっている。しかしそのような伝説が生じてもおかしくないほどに、この曲はモーツァルトの傑作中の傑作であり、今に至るまで世界的に好んで演奏されているのは当然のことと言えよう。

対 訳

MAGNIFICAT

J. S. BACH (1685～1750)

日本聖書協会 「新共同訳 聖書」

Magnificat anima mea Dominum.

わたしの魂は主をあがめ、

Et exsultavit spiritus meus
in Deo salutari meo.

わたしの霊は救い主である神を
喜びたたえます。

Quia respexit humilitatem ancillae suae,
ecce enim ex hoc beatam me dicent.

身分の低い、この主のはしためにも
目を留めてくださったからです。

Omnes generationes.

今から後、いつの世の人も
わたしを幸いな者というでしょう、

Quia fecit mihi magna,
qui potens est,
et sanctum nomen ejus,

力ある方が、わたしに偉大なことを
なさいましたから。
その御名は尊く、

Et misericordia (ejus) a progenie
in progenies timentibus eum.

その憐れみは代々に限りなく、
主を畏れる者に及びます。

Fecit potentiam in brachio suo,
dispersit superbos mente cordis sui.

主はその腕で力を振るい、
思い上がる者を打ち散らし、

Deposuit potentes de sede,
et exaltavit humiles.

権力ある者をその座から引き降ろし、
身分の低い者を高く上げ、

Esurientes implevit bonis,
et divites dimisit inanes.

飢えた人を良い物で満たし、
富める者を空腹のまま追い返されます。

Suscepit Israel puerum suum
Recordatus misericordiae suae.

その僕イスラエルを受け入れて、
憐れみをお忘れになりません、

Sicut locutus est ad patres nostros,
Abraham et semini ejus in saecula.

わたしたちの先祖におっしゃったとおり、
アブラハムとその子孫に対してとこしえに。

Gloria Patri, gloria (et) Filio.
Gloria et Spiritui Sancto.

父と子と
聖霊に栄えあれ。

Sicut erat in principio et nunc
et semper et in saecula saeculorum,
Amen.

はじめにそうであったように、今も、
いつも、いつまでも。
アーメン。

REQUIEM

W. A. Mozart (1756～1791)

高橋正平訳

INTROITUS

Requiem aeternam dona eis, Domine:
et lux perpetua luceat eis.
Te decet hymnus, Deus, in Sion,
et tibi reddetur votum in Jerusalem.
Exaudi orationem meam,
ad te omnis caro veniet.
Requiem aeternam dona eis, Domine,
et lux perpetua luceat eis.

KYRIE

Kyrie eleison.
Christe eleison.
Kyrie eleison.

SEQUENZ ; Dies irae

Dies irae, dies illa
solvat saeculum in favilla:
teste David cum Sibylla.
Quantus tremor est futurus,
quando iudex est venturus,
cuncta stricte discussurus.

Tuba mirum

Tuba mirum spargens sonum
per sepulchra regionum,
coget omnes ante thronum.
Mors stupebit et natura,
cum resurget creatura,
judicanti responsura.
Liber scriptus proferetur,
in quo totum continetur,
unde mundus iudicetur.
Iudex ergo cum sedebit,
quidquid latet, apparebit:
Nil inultum remanebit.
Quid sum miser tunc dicturus?
Quem patronum rogaturus?
Cum vix justus sit securus.

Rex tremendae

Rex tremendae majestatis,
qui salvandos salvas gratis,
salva me, fons pietatis.

入祭唱

主よ、彼らに永遠の安息を与えたまえ。そして
絶えることのない光が彼らを照らしますように。
神よ、シオンで賛歌を捧げるのはあなたにふさわしい。
そして誓いはエルサレムにてあなたに果たされる。
私の祈りを聞きたまえ。
すべて肉なる人はあなたのもとに来るでしょう。
主よ、彼らに永遠の安息を与えたまえ。
絶えることのない光が彼らを照らしますように。

キリエ

主よ、憐みたまえ。
キリストよ、憐みたまえ。
主よ、憐みたまえ。

続唱 ; 怒りの日

その日は怒りの日、
ダビデ王とシビラを証人として
世界を灰燼に帰せしめる。
審判者キリストがすべてのことを
厳しく裁こうとして来られる時、
人々はどれほど恐れおののくことだろう。

不思議なラッパ

不思議な音を全地の墓の上に
鳴り響かせるラッパが
全ての人を玉座の前に集める。
被造物なる人が審判者キリストに
答弁しようとしてよみがえるとき
死と自然は驚くであろう。
その中にすべてのことが書き記された
書物が差し出される。
それによって世界が裁かれるのだ。
それゆえ、裁き主が座に着きたもうとき
隠されていたものはすべてあらわにされるだろう。
罰せられずに残るものはなにひとつないだろう。
その時哀れな私は何を言えよう、
誰を保護者として願えよう、
正しい人でさえほとんど心安らかでないというのに。

恐るべき威光の王よ

救われるべき者を恵みをもって救いたもう
恐るべき威光の王よ、
私を救いたまえ、いつくしみの源泉なる方よ。

Recordare

Recordare Jesu pie,
quod sum causa tuae viae:
ne me perdas illa die.
Quaerens me, sedisti lassus:
Redemisti crucem passus:
Tantus labor non sit cassus.
Juste judex ultionis,
donum fac remissionis,
ante diem rationis.
Ingemisco, tamquam reus:
culpa rubet vultus meus:
supplicanti parce Deus.
Qui Mariam absolvisti,
et latronem exaudisti,
mihi quoque spem dedisti,
Preces meae non sunt dignae:
Sed tu bonus fac benigne,
Ne perenni cremer igne.
Inter oves locum praesta,
et ab haedis me sequestra,
statuens in parte dextra.

Confutatis

Confutatis maledictis,
flammis acribus addictis,
voca me cum benedictis.
Oro supplex et acclinis,
cor contritum quasi cinis:
gere curam mei finis.

Lacrimosa

Lacrimosa dies illa,
qua resurget ex favilla
judicandus homo reus:
Huic ergo parce Deus.
Pie Jesu Domine,
Dona eis requiem. Amen.

OFFERTORIUM ; Domine Jesu

Domine Jesu Christe, Rex gloriae,
libera animas omnium fidelium
defunctorum de poenis inferni,
et de profundo lacu;
libera eas de ore leonis,
ne absorbeat eas tartarus,
ne cadant in obscurum.
Sed signifer Sanctus Michael
repraesentet eas in lucem sanctam,
quam olim Abrahae promisisti
et semini ejus.

思い出したまえ

いつくしみ深いイエスよ、あなたが地上に来られたのは
私のためであったことを思い出したまえ。
その日、私を滅ぼしたもうことのありませんように。
私を尋ね、疲れてあなたは座したもうた。
十字架の苦しみを忍び、あなたは私をあがないたもうた。
これほどの労苦が無駄となることのありませんように。
善悪を報いられる正しい審判者よ。
罪の精算の日が来る前に
赦免という贈り物を与えたまえ。
私は被告人のように嘆く。
私の罪を思うと顔が赤らむ。
マグダラのマリアを赦し、
盗賊の願いを聞き入れて
私にも希望を与えられたもうた神よ、
哀願する私を惜しみたまえ。
身ほど知らずな願いではありますが、
あなたは情け深くあられますから好意をなしたまえ。
私が永遠の火に焼かれることのありませんように。
羊の間に位置を与え、
右側に立たせて
私を山羊より離れたまえ。

呪われた者たちが

呪われた者たちが口をふさがれ
激しい炎に引き渡されるとき、
私を祝福された者たちと共に呼びたまえ。
哀願し、ひれふして私は祈る。
心は灰のように砕かれている。
私の最後の不安を心にかけたまえ。

涙の日

人が被告人として灰の中から
よみがえるその日は
涙あふれる日。
それゆえ神よ、この私を惜しみたまえ。
慈悲深い主なるイエスよ、
彼らに安息を与えたまえ。アーメン

奉献唱 ; 主イエス・キリスト

栄光の王、主イエス・キリストよ
すべて世を去った信者たちの魂を
地獄の罰より、また深い淵より
解き放ちたまえ。
それらの魂をライオンの口より解き放ちたまえ。
それらを陰府が飲み込んでしまうことのありませんように。
それらが闇の中へ陥りませんように。
騎手聖ミカエルが
聖なる光のうちへと導いてくれますように。
かつてあなたがアブラハムと
その子孫に約束されたように。

Hostias

Hostias et preces tibi,
Domine, laudis offerimus:
Tu suscipe pro animabus illis,
quarum hodie memoriam facimus:
Fac eas, Domine, de morte transire
ad vitam,
quam olim Abrahae promisisti
et semini ejus.

Sanctus

Sanctus, Sanctus, Sanctus
Dominus, Deus Sabaoth.
Pleni sunt caeli et terra gloria tua
Hosanna, in excelsis.

Benedictus

Benedictus qui venit in nomine
Domini
Hosanna, in excelsis.

Agnus Dei

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:
dona eis requiem.
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:
dona eis requiem.
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:
dona eis requiem sempiternam.

COMMUNIO ; Lux aeterna

Lux aeterna luceat eis, Domine:
Cum Sanctis tuis in aeternum,
quia pius es.
Requiem aeternam dona eis Domine:
et lux perpetua luceat eis.
Cum Sanctis tuis in aeternum,
quia pius es.

賛美のいけにえ

主よ私たちは賛美のいけにえと
祈願をあなたに捧げます。
本日、私たちが記念しているこれらの魂のために
あなたは受け入れたまえ。
主よ、それらの魂を死より生命に移らせたまえ。

かつてあなたがアブラハムと
その子孫に約束されたように。

聖なるかな

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、
万軍の主なる神。
天地はあなたの栄光で満ちている。
至高のところにホサナ。

祝福あれ

主の名によって来られる方に
祝福あれ。
至高のところにホサナ。

神の子羊

世の罪を取り去りたもう神の小羊よ
彼らに安息を与えたまえ。
世の罪を取り去りたもう神の小羊よ
彼らに安息を与えたまえ。
世の罪を取り去りたもう神の小羊よ
彼らに永遠の安息を与えたまえ。

聖体拝領唱 ; 永遠の光

主よ、あなたは情け深くあられますから、
彼らも聖人たちと同じように
とこしえに永遠の光で照らしたまえ。
主よ、永遠の安息を彼らに与えたまえ。
そして絶えることのない光が彼らを照らしますように。
あなたは情け深くあられますから
聖人たちと同じように、とこしえに。

大阪ゲヴァントハウス合唱団 30 年のあゆみ

定期演奏会は第 2 回から 11 回までの記載を省略

* 印は京都・大阪合同演奏

- 1977 年 指揮者・林達次により京都西陣織物会館において「京都ゲヴァントハウス合唱団」設立
(ゲヴァントハウス・・・ドイツ語で織物会館の意味)。
- 1982 年 同じ林によりその姉妹合唱団「大阪ゲヴァントハウス合唱団」が結成された。林を音楽監督として、西欧の宗教音楽を中心に国内外で幅広い演奏活動を開始。
- 1984 年 第 1 回定期演奏会 シューベルト「ト長調ミサ」他 [梅田聖パウロ教会]
- 1986 年 この年から林達次オラトリオシリーズ>がスタート。
京都・大阪ゲヴァントハウス合唱団としてシリーズの主力合唱団の活動を続け、1996 年に完結。
オラトリオシリーズ第 1 回* バッハ「マタイ受難曲」 [ザ・シンフォニーホール]
ローマ法王庁の公式招待により聖ピエトロ寺院大聖堂で日本の合唱団として初めて法王謁見演奏*の栄に浴した。
- 1987 年 オラトリオシリーズ第 2 回* バッハ「ロ短調ミサ」 [ザ・シンフォニーホール]
- 1988 年 オラトリオシリーズ第 3 回* [ザ・シンフォニーホール]
ブラームス「ドイツレクイエム」
- 1989 年 ベルギー・イギリス演奏旅行* ロンドン・ウエストミンスター大聖堂で献唱
- 1990 年 オラトリオシリーズ第 4 回* [ザ・シンフォニーホール]
ブリッテン教会劇「カーリユーリヴァー」
- 1991 年 オラトリオシリーズ第 5 回* バッハ「ヨハネ受難曲」 [ザ・シンフォニーホール]
イギリス・オールドバラ B.ブリッテン国際音楽祭にて、ブリッテン「カーリユーリヴァー」を演奏*
- 1992 年 オラトリオシリーズ第 6 回* ハイドン「四季」 [ザ・シンフォニーホール]
- 1993 年 オラトリオシリーズ第 7 回* ヘンデル「メサイヤ」 [ザ・シンフォニーホール]
ドイツ・オーストリア演奏旅行* ウイーン・聖シュテファン大聖堂で献唱
- 1994 年 オラトリオシリーズ第 8 回* [ザ・シンフォニーホール]
原嘉寿子「マリアの生涯」
- 1995 年 モナレダ「サクラダファミリアの為のミサ」* [千里阪急ホテル]
スペイン・スイス演奏旅行。バルセロナ・サクラダファミリア教会で献唱*
オラトリオシリーズ第 9 回* [ザ・シンフォニーホール]
シューベルト「ト長調ミサ」
モーツアルト「レクイエム」
- 1996 年 オラトリオシリーズ第 10 回* ハイドン「天地創造」 [ザ・シンフォニーホール]
- 1997 年 メンデルスゾーン没後 150 年祭に招かれ、ライブチヒ・ゲヴァントハウスおよび聖トマス教会で演奏会*
- 1998 年 第 12 回定期演奏会 [宝塚ベガホール]
サンサーンス「クリスマスオラトリオ」ほか
- 1999 年 林達次音楽生活 50 周年記念演奏会* [いづみホール]
バッハ「マタイ受難曲」
- 2000 年 第 13 回定期演奏会 [いづみホール]
ブラームス「ドイツレクイエム」ほか
- 2001 年 第 14 回定期演奏会 [豊中教会]
ハイドン「サルヴェ・レジーナ」ほか
バッハ「マタイ受難曲」* [ザ・シンフォニーホール]
バッハ「マタイ受難曲」* [ウィーン楽友協会
大ホール]
- 2002 年 第 15 回定期演奏会 [リーガロイヤルホテル
チャペル]
ブルックナー「モテット集」ほか

2002年 (続き)	ベルリンからカメラータ・ヴォカーレを迎え 合同演奏＊ モーツアルト「レクイエム」 C.P.E. バッハ「マニフィカート」 平和祈願コンサート＊ モーツアルト「レクイエム」 ステンドグラス「瑠璃光」開扉式で奉献演奏 同寺の経文「薬師悔過」に基づく新曲 「瑠璃光」(谷田雄子作曲)	[ザ・シンフォニーホール] [鳴門大塚国際美術館 システィナ礼拝堂] [新薬師寺本堂]
2003年	第16回定期演奏会 ラインベルガー「レクイエムニ短調」ほか オラトリオシリーズ東京公演＊ ブラームス「ドイツレクイエム」ほか この年12月、団創設者・音楽監督 林達次死去	[東梅田教会] [すみだトリフォニー ホール]
2004年	カメラータ・ヴォカーレと合同演奏会＊ ブラームス「ドイツレクイエム」他 林達次追悼記念コンサートに出演＊	[ベルリンフィル ハーモニー大ホール] [いずみホール]
2005年	この年1月、波多野均が当団の常任指揮者に就任 新薬師寺「瑠璃光」開扉3周年記念コンサート	[新薬師寺本堂]
2006年	カメラータ・ヴォカーレと合同演奏会 バッハ「マタイ受難曲」 大阪府医師会フィルハーモニー第36回定期演奏会 ベートーヴェン「第九交響曲」 第17回定期演奏会 モーツアルト「戴冠ミサ」ほか	[ベルリンフィル ハーモニー大ホール] [いずみホール] [いずみホール]
2007年	カメラータ・ヴォカーレと合同演奏会 バッハ「ヨハネ受難曲」	[ベルリン・コンツェルト ハウス]
2007年	創立25周年記念演奏会 バッハ「ヨハネ受難曲」第2稿	[兵庫県立芸術文化 センター大ホール]
2008年	ハイドン オラトリオ「四季」 カメラータ・ヴォカーレと合同演奏 ハイドン オラトリオ「四季」 当団単独演奏(アグネス・グロスマン指揮)	[ベルリン・コンツェルト ハウス] [NHK大阪ホール]
2009年	平田聖子作曲の「本眼力にあいぬれば」をCD録音 第18回定期演奏会 平田聖子作曲「本願力にあいぬれば」 ブラームス「ジプシーの歌」ほか	[いずみホール]
2010年	林達次メモリアル、 メンデルスゾーン生誕200年記念演奏会＊ オラトリオ「エリアス」(アグネス グロスマン指揮) 第19回定期演奏会 浦山弘三先生を偲んで信時潔作曲/木下保編曲「沙羅」 フォーレ「レクイエム」、メンデルスゾーン	[京都コンサートホール 大ホール] [いずみホール]
2012年	第20回記念定期演奏会 リスト「ミサ コラーリス」 平田聖子作曲「慶ばしいかな」より ほか	[いずみホール]
2012年	平田聖子作曲「慶ばしいかな」のCD録音 CD「慶ばしいかな」発売記念コンサートに出演	[名古屋しらかわホール]

出演合唱団員

大阪ゲヴァントハウス合唱団

■ソプラノ

井上 京	大谷志穂	岡村郁子	片桐志都	後藤奈津子	駒走友美
阪井葉子	千束展江	谷田雄子	田村愛子	中川紀子	藤村絵津子
松井 彩	宮本芽衣	森重明子	山口佳代子	山田裕子	山本和代

■アルト

以倉優子	伊部 露子	岡田美智代	杉林貴子	中林節子	中村まち子
藤森真理	山本みどり	和田尚子			

■テノール

伊原木幸馬	太田宗夫	川本昭男	栗山和郎	佐々木莊生	豊原 力
藤森唯史	山本健司	吉谷地勝久			

■バス

荒川正夫	稲林秀記	大田学	岡本康	片桐知之	金山州博
西田修三	西田卓史	前川治治			

カメラータ・ヴォカーレ・ベルリン

Camerata Vocale Berlin

■S o p r a n

Bettina Fromkorth	Lioba Joos	Cäcilie Pytel
Rita Röhr	Constanze Rudwaleit	Helen Wilde

■A l t

Ullrike Blankenfeld	Katharina Bohn	Rosemarie Florian
Sigrid Herzog	Friederike Krüger	Birgitta Löns
Eva-Catrin Reinhardt	Christine Steinbeiß -Winkelmann	

■T e n o r

Domenico Armin Colasurdo	Friedemann Haeffner	Felix Kern
Michael Scheloske	Günter Schütrumpf	

■B a s s

Mark Diefenbach	Ulrich Hilsberg	Christoph Hoff
Max Jerschke	Stephan Kowallis	Sebastian Löser

団員募集中 !!

《 ベルリンで モーツァルト『レクイエム』を歌いませんか 》

2013年3月7日ベルリン・コンツェルトハウスにて

当団は波多野均の指導の下、ヨーロッパ宗教音楽の名曲・大曲をはじめ日本の名曲や各国の珠玉のような世俗の小品などもとりあげています。

来年春にはドイツを訪れ、本日合同演奏するカメラータ・ヴォカーレ・ベルリンとドイツで合同演奏を行います。

ゲヴァントの仲間になってベルリンで歌いませんか？

随行者も歓迎いたします。

団員募集は随時行っていますので、是非一度見学にお越しください。

ベルリン行きは無理という方も、もちろん歓迎致します。



2007年 バッハ「ヨハネ受難曲」
ベルリン・コンツェルトハウス大ホール

通常練習 毎週木曜日 18:30~21:00 大阪産業創造館
問い合わせ e-mail: osgewand@hotmail.co.jp
ホームページ <http://osaka-gewandhaus.music.coocan.jp>